

1. 活動報告（事務局 記）

—2月03日（木）9時より【ダムの郷】にて二俣瀬地区会員参加稲作詳細協議

「稲作体験」を活動の一環として再開することを二俣瀬地域会員にて協議会が行われました。田植え、稲刈り、収穫祭は親子自然観察会の体験学習として組み入れることになりました。準備はかは従来通りつくる会の行事となります。

地区会員10名の参加でこまごました計画を立てる事が出来ました。

—2月06日（日）大勢20名の参加がありまして、下記たくさんの方が活動が出来ました。

①エコアップ：湿地帯スゲの主に抜き取りと若干の刈り取り

②水路周辺の草刈と溝上げ

③田んぼ作付準備：イ）厩肥3トン散布 ロ）よけじ溝あげ

田んぼは荒鋤取りを原田宗会員に依頼しました。

—2月13日（日）17時より【山大工学部】にて市街地域会員参加観察隊活動詳細協議

再開する「親子自然観察会」を市街地の10名の会員にて協議しました。4月～12月計9回（体験3回、観察会6回）となります。

—2月17日（木）ビオトープ土地の件について説明会が有りました。

土地購入の経緯説明を県環境政策課より、スケジュールを宇部市環境政策課より説明が有りました。4月中旬になると土地問題は解決される見通しです。

山口県環境政策課より木戸さん、健康福祉センターより前田さん、津田さん、宇部市環境政策課から藤永さん、田戸さん、当会から今井、原田賢、田村、原田マ計9名でした。

—2月20日（日）17名の参加でした。

① 池ゾーンのエコアップはコウホネ、スゲ草、イグサの間引きでした。

② 須賀河内川の田んぼゾーン東側及び流域全部の芦の刈り取り、水の流れ修正

③ 駐車場用看板移設（厚東川水系協議会のものをもらいうけ）

④ 水車水路溝上げ

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定はありません

◎ 行事

- 2月27日（日）エコ仲間の集い参加（常盤湖水ホール）
- 3月 6日（日）宇部市地球温暖化対策ネットワークのカーボン・オフセット「CO₂吸収減の森づくり植樹祭」に共催で協働作業（亀浦公園）（午前・午後）
- 3月 6日（日）維持活動（修復とエコアップ）（午前）
- 3月19日（土）維持活動（修復とエコアップ）
- 4月 2日（土）総会

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

ノートの記載はありません

今月はありません

4. 会員の声

【啓蟄の候】

（一会員 原田 満洲夫 記）

昨年まではビオトープ周辺にたくさん存在したため池や猪のヌタバの水溜りが今年は干上
がっており、地球温暖化がここまで進んでいるかと非常に心配したものである。

2月10日前後に遅れての降雪や季節外れの雨でなんとか、水も溜まって二オンアカガエル
の産卵が始まった。幸い我がビオトープにも20数個体の産卵が見られた。

我が家の近くにもなんとかカスミサンショウウオの産卵が見られ、いつもながらの季節が
廻って来たで一安心である。

この道のオオソリテイ西原会員とビオトープ周辺を散策すると、われわれ以外の数人の団
体と遭遇し、問い合わせると新幹線の新型車両の写真マニアであった。長い時間ずっと待っ
ている姿は関心のない我々は非常に滑稽に感じる。立場を変えればわれわれもその滑稽の一
員であろうか？いいやそうではない、われわれはれっきとした自然環境の変化を憂う神の
申し子である。などと？只の趣味の人間とは違うと思っているのである。

話はかわって、今年から再生される稲作及び自然観察会は、従来にない計画性のある、ま
た会員全員の責任分担形式に協議されてきまり、ビオトープをつくる会の活動も充実した観
が見られて来ました。以前から忠臣蔵を例えにとって言ってきましたが、四十七士にはまだ
少し足りませんが会員全員がそのつもりで実行すれば12月14日の3日あとの第三土曜日
（収穫祭）には大願成就するはずです。頑張りましょう。

5. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(33) モノサシトンボ (モノサシトンボ科モノサシトンボ属)

Coperia annulata (Selys)

国内全域に棲息しますが、北海道や東北地方、九州南部では少ないようです。体長は6センチほどのやや大型のイトトンボです。腹部にはモノサシの目盛りのような環状紋があるので、わりと同定しやすいトンボです。

ため池や沼、湿地などに生息しますが、成虫は明るい場所よりむしろ薄暗い広場を好むようで、半日陰の通路などによく見られます。ビオトープでは池の周りの草の葉などによく止まっていますが、一部の個体は山際の薄暗い場所でも見られます。

同じ仲間に「グンバイトンボ」「ルリモントンボ」などがいますが、グンバイトンボはビオトープでも見られますがルリモントンボは琉球列島の特産種になります。



モノサシトンボ ♂



モノサシトンボ ♀



グンバイトンボ ♂



沖縄産 リュウキュウブルーリモントンボ ♂



モノサシトンボ連結交尾

6. 会よりの連絡事項（事務局より）

(1) 会員募集

「つくる会会員」と「親子自然観察会会員」の募集をしております。会員皆様の口伝えが一番の早道です、個人的に誘い合わせて戴きたく願います。

チラシはつくって準備しております。

折角宇部市にビオトープ土地を名義替え戴いて、NPO 法人宇部環境コミュニティー傘下で活動しても、しっかりした会員でなければ有意義な活動をするため多くの会員が必要となります。

(2) 新入会員のお知らせ

今後宇部市とのかかわり合が多くなるため宇部市環境政策課の方に入会いただきましたのでお知らせします。

藤永義昭 宇部市環境政策課 課長 ☎34-8264

田戸 亨 宇部市環境政策課 公害対策係 ☎34-8248

いずれも住所は追って連絡します。

7. 編集後記

今月の12日は、大雪でした。朝は何もなかったのに、昼過ぎには白一色の風景となりました。午前中、下関に出かけていたので、帰りにビオトープで雪見と考えましたがだめでした。2号線が全く動かず、たどり着けません。宇部市内も、予想外の雪で大混乱です。ふと、これは処分された白鳥たちの、嘆きの雪なのではないかとの思いがよぎりました。

9日に死んだコクチョウが発見され、その日の内に処分が決定し、11日には処分が終了したそうです。コクチョウの死を知ったとき、最悪の事態にならねば良いかと願っていたのですが、お役所仕事にあるまじき、あまりにも素早い処置に唖然としました。

全国ネットのニュースで、処分の様子が報道されていました。白装束の人間が白鳥たちを追い回す映像を見ながら、もう少し丁寧な方法で出来ないものかとも、思いました。しかし、処分に加わっておられるたであろう、飼育員の方々の胸中を考えると、やりきれなくなります。

合鴨農法の鴨でさえ、処分できなかったビオトープ会員の気持ちとしては、二度とこのようなことが起きないように願うばかりです。

（ 前田 歳朗 記 ）

この冬の寒さはとても厳しく電気、灯油の消費も例年を上まわった。花の開花も少し遅いようだがホトケノザはもうしっかり花をつけている。庭のゆずの実を鳥がたべている。今までキンカンはつついてもゆずには口をつけなかった気がするけれど。通勤途中にあるため池に冬になるとやって来る野鳥がみえなかった。常盤公園の白鳥やかも達、とても残念、自然の驚異には。新年度にむけて各分野で新しいリーダーの下での活動をと動き始めている。一部の方へ大きな負担をかけない様に皆の活動である事を心して参加していきたい。

（ 松本 フデ子 記 ）